

大会宣言

新座のお母さん、女性のみなさん、男性のみなさん
今年も多くのの方々参加により、新座母親大会が開催されました。

東日本震災から1年半が経過した現在も、復興はなかなか進んでいません。政府の責任で一日も早い復興・除染などを実現してほしいものです。「危険な原発はいらぬ、原発に頼らない社会にしよう」という国民の願いに反して、野田内閣は大飯原発の再稼働を強行しました。今年の夏の猛暑でも、原発がなくても電力はまかなえました。「原発ゼロ」に向けて、毎週金曜日に多くの一般市民が首相官邸を包囲してデモを続けたり、17万人の集会を開いたりして、「反原発」の運動は大きく広がっています。

野田内閣は、自民党を巻き込んで消費税の税率を上げようとしています。消費税が上げられれば国民生活は大変になり、商店や中小企業の人たちは大打撃を受けます。その他にもオスプレイ配備、TPP参加など、財界、アメリカ言いなりの政治を進めようとしています。これらに反対する運動も広がっています。

円高と長引く不況で、国民生活はたいへんな状況になっています。今、非正規雇用、不安定雇用の若者が増えています。就職難で、仕事につけない人もたくさんいます。大企業・財界中心の「新成長戦略」路線では、国民の暮らしはよくなりません。私たちは、雇用、教育、医療などの生活向上の公約の実行を強く求めます。

教育の分野では、現在は、小学校1、2年生で35人学級が実現しています。しかし、3年生以上は40人学級のままで。私たちは、30人学級の完全実施を早期に実現するように運動を進めていきます。新座市は今年度から教職員の意向を聞くことなく、年間8回の土曜授業を始めました。教師の多忙化に拍車がかかり、先生たちは疲れ切っているというのが現状です。

いま世界では、平和で公正な社会を求めるうねりが高まっています。世界の人々の願いは、戦争も核兵器もない平和な世の中に暮らすことです。その中でもわが国の日本国憲法第九条は、「戦争放棄」を理念として輝いています。私たちは草の根から憲法を守り発展させる運動を、これからも発展させていきます。

雇用の問題、生活の問題、教育の問題、放射能汚染の問題、私たちの周りには課題がいっぱいです。これらの課題に対して、力を合わせて取り組んでいきます。

子どもたちに平和と明るい未来を手渡したい、それが私たちの切なる願いです。

本日分科会で話し合われた一つ一つの問題を改善していくためには、私たちが憲法を深く学び、国、県、新座市にその精神を生かした行政を要求していくことが急務です。

生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます。

女性も男性も生き生きと働き、豊かな老後を通越せるよう運動を進めていくことを新座母親大会の名で宣言します。

2012年10月14日